

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

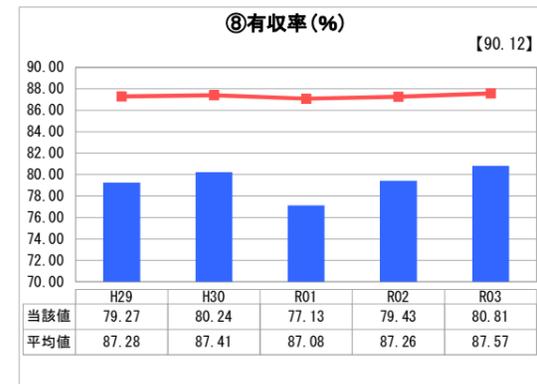
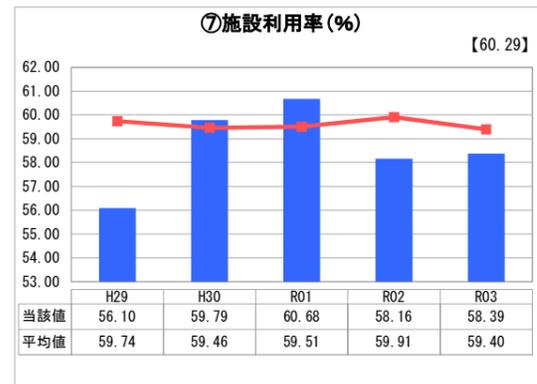
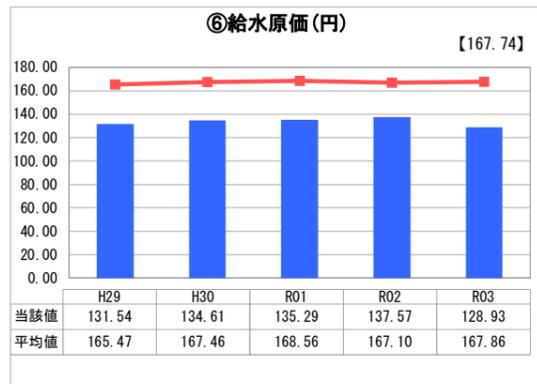
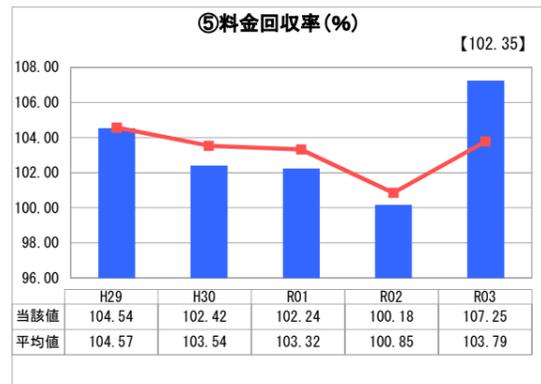
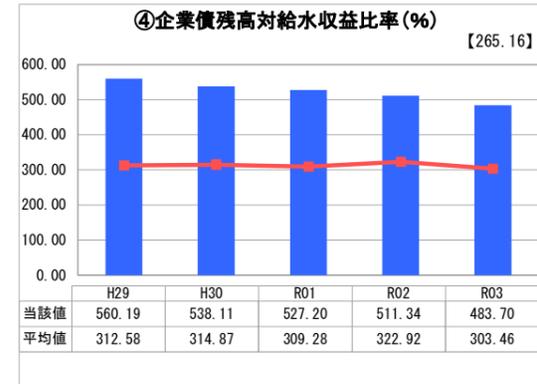
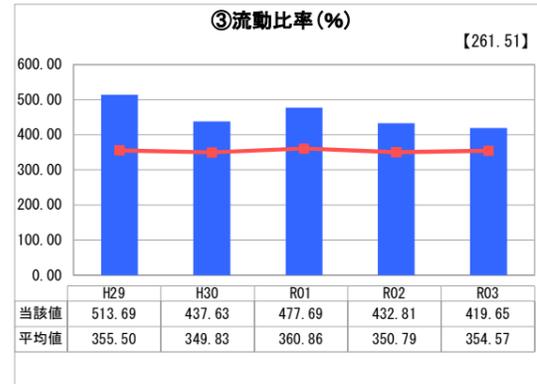
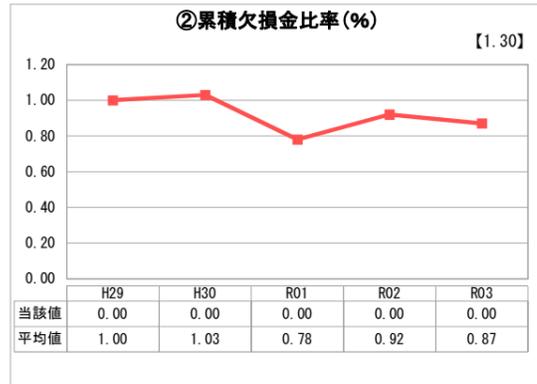
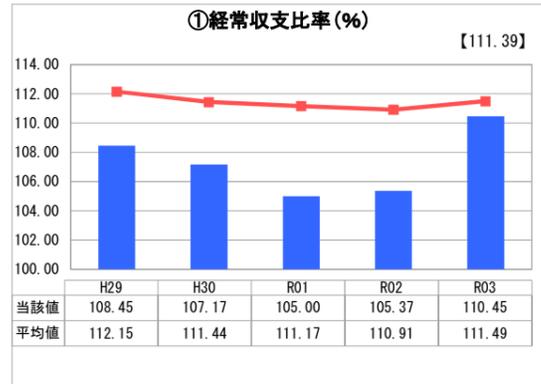
群馬県 安中市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	64.34	99.20	2,420	

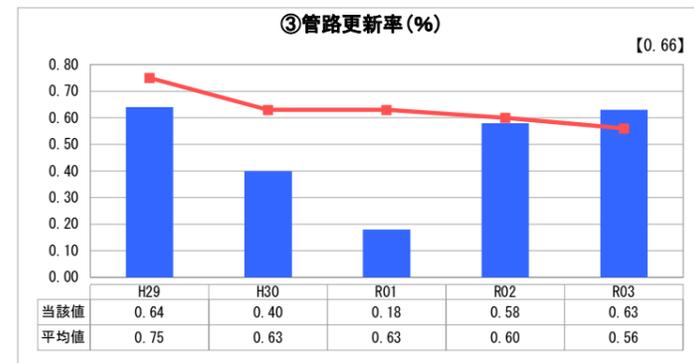
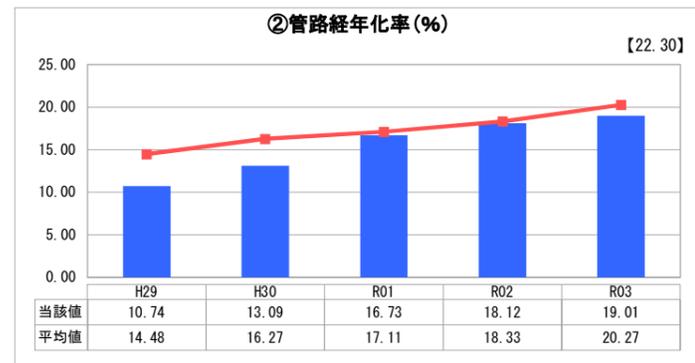
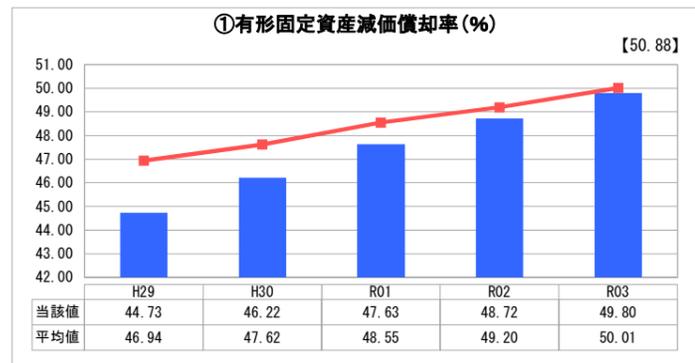
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
56,078	276.31	202.95
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
55,319	126.13	438.59

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、過去5年間いずれも100%を上回っており、近年は健全な経営であるといえます。  
 ② 累積欠損金比率は、累積欠損金が発生していないため0%であり、健全な経営であるといえます。  
 ③ 流動比率は、100%を上回っており短期債務に対する支払能力は確保されています。  
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を上回っており、給水収益に対する企業債残高の規模が類似団体より大きくなっていますが、老朽管更新や施設更新等を計画的に実施しているためと考えられます。  
 ⑤ 料金回収率は、100%を上回っており給水に係る費用を水道料金で賄えています。R3はR2と比べ、有収水量の増加に伴う給水収益の増加及び修繕費等の費用が抑えられたことにより給水原価が低下したことから大きく変化していますが、引き続き費用削減は必要です。  
 ⑥ 給水原価は、おおむね130円台で推移し、類似団体平均値を下回っており、低い水準であるといえます。  
 ⑦ 施設利用率は、H30に新規水源を確保したことにより全体の施設能力を見直したため、大きく変化しています。給水人口の減少などにより今後の使用水量は中長期的には減少傾向が続く見込みであり、施設更新の際は過剰な施設とならないよう、施設の統廃合を含め、適切な施設規模を検討する必要があります。  
 ⑧ 有収率は、類似団体平均値を7ポイント程度下回っています。原因の多くは漏水であり、漏水の原因は老朽化した配水管などが挙げられます。今後も老朽化した施設及び管路の更新等を計画的に行い、漏水防止対策を進めていく必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値を下回っていますが上昇傾向にあります。施設全体の老朽化が進みつつあり、今後の計画的な更新が必要です。  
 ② 管路経年化率は、類似団体平均値を下回っていますが上昇傾向にあります。近年、法定耐用年数を超過した管路延長が増加しており、今後の計画的かつ積極的な更新が必要です。  
 ③ 管路更新率は、R3は類似団体平均値を上回りましたが、引き続き、経年化により不具合が生じている管路、漏水が多い管路および耐震性の低い管路を主な対象として、管路の更新を進めることが重要です。  
 本市は6つの浄水場と起伏のある複雑な地形に対応するため多くの配水池やポンプ場を保有していることから、管路だけでなくそれらの水道施設についても、耐用年数や老朽化度合、運転状況等を踏まえて計画的に更新を行う必要があります。

### 全体総括

経営の健全性は、おおむね良好に維持していますが、施設の効率性の向上に努める必要があります。人口減少社会に突入し、本市においても、水道の使用量と料金収入に密接に関係している給水人口の減少が想定されており、今後の水道事業運営に大きな影響を及ぼすことが想定されています。  
 水道施設の老朽化が進みつつありますが、老朽施設の更新や耐震化には多額の資金が必要となることから、計画的かつ効率的な事業を行うなど経営効率化の取り組みを一層強化する必要があります。加えて料金については、安定した給水サービスの対価であるとの認識のうえ、お客さまの必要とする水需要に対する要望を充足できるように適正に定められ、次世代に負担を先送りしない水準を検討する必要があります。  
 本市の水道事業ビジョンおよび経営戦略に基づき、水道施設の強靱化や経営基盤の強化に取り組み、将来にわたり安全で安心できる良質な水道水の安定供給を確保し、お客さまに、より一層安心して使用していただける水道を目指します。